

④④④④

31 August, 1974

午後には Sand Storm が出てくる。

かぜを引いて、げりをして、完全にグロッキー 絶食しシユラフに入っ
て一日中、おている。熱も 37°8' ほど出る。げりの方は、体調を整えなければ
なおらないようだ。それに「バニー」ゴブド一軍が、悪いらしい。水も関係ある
かもしれない。とにかくひどくなると腰がいたてたまらない。

Liaison 河本の2名、空港へ交渉に行くが flight なしで Office close 何にも
ない。明日、軍の輸送機がやってくるという事で、氷をアルジするつもりらしい。さて、中
の殿の實力のほどは？

八王寺のライラ Party がスカルドへ帰ってくる。トラグターで空
港へ直行。キャンプする。trecker 4名がレストハウスへやってくる。バルトロ、
ニコルディアへ行く。できたぞうだ。

Liaison の上司メジャーがクリに行くので、河本さんもついていったらしい。
Indus trout を食べさせてもらったらしい。八王寺のバラサーグといっ
はらした。夕方7時ごろレストハウスへ帰ってきた。

ここ3日、日 天気が悪くなってきたのでフライトはない。3日
から予約してあるが、たいがずれ込むのではないだろうか。ヒンディ
へ帰れば、Hotel代も高いくし、まあ、待たされるのならスカルドの方が
良かったらう。

夕食は少し食べる。雑炊だったので腹には良い。しかしあとで寝
薬のためを食べたりしたのでまずかったお水ぬ。酒井もかぜを引いて
いるが、假は、せきもひどい。その他、げりの連中の夕飯のこと。

④④④④

→小雨は5分。

1 September, 1974

6時、良くぬたせいか目がさめる。顔のいたいのはとれたらしい。熱
の下った。11時の方は、相変わらずゴロゴロ、いっている。腰もまた
いたい。八田さんから包装リストの作成をたのまれていたので、それを
作る。

7時半、オム、スールが出てくる。

にわたり2羽、小生のホホトマネーで買う。70RS payment 済。
倉からガリーを charter. Satpara の町へ行く。Skardu から南
へジンプで40分。サトハラ湖の上流にある寒村で、ちよど。そばの花が
咲き乱れていた。この谷は上流に氷河がないので、水が美しく、サト
ハラ湖も青く、すき通っていた。サトハラ湖は、インドモーンが氷を
止めた氷河湖で、あまり大きくはないが、このあたりでは、美しい湖
であらう。

ここへ登ってくると、スカルドとは異なり、実に涼しくなり、夕方では
寒さを感じた。サトハラ湖の町は、谷の出口や河岸段丘のあちこちの
小さな土地を利用して、畑を作っているが、寒村という感じであり、
なぜサトハラ湖のハイポーターが盛れたのか？理由はすぐにわかる。
6月ごろは、山にまた残雪があり、きっと美しい風景であらうと思
う。

夕方、レストハウスへ帰り、荷物は2台を空港へ運んだ。サトハラ
では、high-porter の Assad の家へ行き、夕食までごちそうになっ
た。トマトスープはうまかった。ナムプティも良かった。

◎◎◎◎

2. August, 1974

Skardu 滞在.

天気悪し、朝から牛紙書きに精出す。丹波さん、吉沢一郎さん、日山協、県岳連前田さん、丹羽先生、学長、学生課等に絵葉書を出す。昼までかかる。昼からにわたり又羽を Pakistan 式につぶす。首をはねる時

である。はねて2、3分はいた。Pakistan 式の角解ごと皮をはぎ取り、牛羽内臓を取り出せばおあたたかいうちに料理



は、いやなもの
よくよく動いて
体は鳥はた
脚を切り取
てしまおう。

夕食には、このシチューでとれた玉ねぎ、じゃがいも、キャベツを入れて、岩塩で味を付けて、けいこういけるスープができた。

明日、天気が良ければ C-130 輸送機がやってくるのでこれに乗る事になった。キャンプ明朝の jeep も準備してくめる。けいこう頑張ってくる。

Skardu 滞在、4日と5日であるが皆たつくしている。そろそろお日時もお知らせない。しかし明日も天気が良くないかわからない。

皆日本の話をしている。Khaplu から Skardu までげりをやっているものが多く、今日も小生、河本、八田、等がやっている。

①①〇〇

Pindi

3 September, 1974

Pakistan 空軍機 C-130 を P.I.A. が charter し Skardu まで飛ばせる。機内は、窓が多く、かじりついて Skardu の町を見る。たが、ハイルバント、ハラエシ、ラカホシ、ヒスハロー、シヤイマツ、ハツラ等。カラコルムの Big Peaks がめじろおしに林立している所を飛ぶ。Indus R. も眼下にある。

Skardu の朝、jeep を charter し、空港へ。オーストラリア人や、デスマーチ等混って、人数がふい twice かる。

Syunsan, Doctor & I. had a breakfast at the new Rest house in Skardu. with a Australian student. We did not get ready for the flight because the weather was bad, yes, we thought so. It was late to start from the resthouse. We made the air plain to wait for us. for 30 minute, may be. Choki-dori in the resthouse got two lens. after our departure, because we kept two lens in the resthouse for our dinner in that day.

In this morning, I thanked to the majorer from Swedish, He helped us at Khaplu to send our 10 parcels to Skardu. by jeep.

I gave him a wappen of KUKI-1. I promised to give him in Khaplu.

Pindi, we reached at noon. It was not so hot. and I felt the city became green. and beautiful. And. could see many girls. Yes, It is September. School began.

4. September, 1974

Lt. (Lieutenant) Mamoon Farid Aska
28 Cavalry, Kharian Cantt,
Pakistan.

Liaison Officer of the Expedition

タイド打です。 I spent whole day to typewrite
our Report of the Expedition.

ウルド語で小生の名前を書くと。

2) مامون فرید اسکا
E U I O S T

とるそうた。 "の発音がウルド語にはないよてタイ
に甘えてしまい何度も言て。 Park Hotel のポインに書いて
もらった。

5 September, 1974

- Chinese agency (shipping 業者) Rawalpindi
がある。 Chinese Packer
 - certification (film について)
 - insurance.
 - travel agency を使って金を Skardu へ送る方法がある。
- 朝 7:30 起床して T.D. Office へ L.O. と行く。

² 7303
30220000 8 = 58664

22 159
20
54
Truck: 2,200
6,000
3,600
15,000
4 500
3,460 ✓
8,200
954 ✓
7,000 ✓
1,000 ✓
2,000 ✓
3,000 ✓
1,500

54,500

Lt. Mamoon 君の
字である。何でも良
くしてくれ。自分でしな
ければ気が済まないあ
たり。小生と休ているでは甘
いか。まあ、good Officer
であったと見るべきでは。

54,414

メンバーの変更については、Reserved Memberの中から、やはり問題ない。ので、そうすべき。

土曜日まで、applicationにリザーブメンバーを入れて作成しておけば良い。今年は、多数のapplicationがくるので早く、permissionを得るようにお知らせは、おろしい。

transport 500kg以上

(1) P.I.A. を利用 Pindi → Karachi 送りの場合。

cost 2.80 RS / kg 1400 RS
service daily 朝持っていくは、夕方 Karachi 受取り。
空港 Office へ持っていくは、良い。

(2) トラック。 Park Hotel の manager に聞いている。

cost 1500 RS chartered
logistics 150 RS (混載 4~5日)

(3) Chinese Packer Rawalpindi

Tourism Division へ出頭。遠征隊の報告をする。ナシル
ワラ、アブ氏が後継しいた。

※ 9/8. Muree 見物の後、Rawalpindi へ帰り、110キスタンスタールの「カミーズ」、1117-ルを仕立てに行く。一夜で作水という事で、社立代は、Rs 20 + 初夜代、5ルヒョー取られた。生地は Muree で、ポイントが安いから買えば、110キスタンスタールのものを、56ルヒョーで買った。

6 September, 1974

山口、Manoom 1037-ルへ行く。小生は朝から application の作成に精出す。

Truck をキヤ-9-1. RS 400-で Karachi まで荷物を送り出す。PM 9:00. 八田、西内を同行させる。

小生、報告書作り、及び application の作成、reserved members の項人選に苦労する。後さん、小生は当然のことながら、入れておく。

荷物の発送は、トラック chartered して Karachi へ agency を見つける事にした。八田氏は transport 係として仕事を日本に出発時途中に放棄。caravan 及びトラック旅行でも、Down して何もせず、Base へ入ってから、全く知らん顔。いさよ、このままでは、無能のまゝ日本へ帰る事に甘んじないと思ひ、大任をまかせる事にした。言わずにはおけば、全く何も出来ない人である。産征には、こういう人は、いざい方が良かった。

まあ、最後の仕事を済らさうい、それから、afghan になり何なり、まわって下さり、見たい所を見て帰って下さい。ぎと見るだけは何もしないでしようか。

7. September, 1974

早朝. 河本. 酒井. Karachi へ. ラホール経由で出発する.
登山本部への手紙をたけ.

キャブは. insurance co. へ交渉に行く.

田中. 井上. 船津. 山口. Afghanistan Embassy へ.

5. Visa代 #5:00-

975-代 Rs. 20:00- (個人 + Rs 20) 隊

" " Rs. 5:00- 個人

Maxsun 本体. 130 RS

Doze Mantles (2) 20

Nipples (2) 4:50

Needles (3) 3:00

Glass (2) 3:50

Pump valve (1) 3:50

Needle key (1) 2:00

氷山. 干本杉ヒュッテに
設置して使用する様.
現役へのみやげとする.

Total Rs. 166.50

Pakistan 製の paper 封筒購入 (envelope) Rs. 10.00-

Copy (reserved member list) 9部 Rs. 15.00-

Maxsun の air valve (1) Rs. 0.62-

夕方. Karachi より Tel あり. (酒井. 河本) Japan Club は泊れな
い事. 滞在 Hotel は. Hotel National City. telephone
No. 513850. (in Karachi)

I went to the market to buy a suitcase made of
reisure. I found out a nice simple one
But it was expensive, 270 Rs. If he discounts
the price down to 200 Rs. I will buy it at once.
夕立がありすっきり涼しくなる.

Sunday 8 September, 1974

土. Mamoon 君. 新たに. 英国のヒッキング Party の L. O.
として. 今朝. Skardu へ出発していった. さらに2ヶ月ほど
今度は Baltoro Gl. でお仕事になるわけだ.

新たにフィルムを帰ってくる. 使用済フィルムは. Total
約 150本となった.

早朝. Doctor と山口君. Peshawar へ出発する. 27日
我々だけになった. 明日は. Report と. Application を提出
して. 一応我々の仕事を終了させるつもりである.

Post Card. 白杉洋 円満亭 石野浩一郎 泉三
標準課. 木橋武雄 木内(英) 長沢光男
三谷昌史. 杉野佳子

昼から Muree へ行く. ホテルのホステスを Guide にして. ツーリスト7人
に乗り. 約1時間. 11.6km である. (17.7km 要).

tourist wagen 3名. Rs. 18- x2. Rs. 36-

Lunch " " Rs. 35-

かご皿 7枚 (T) Rs. 10-

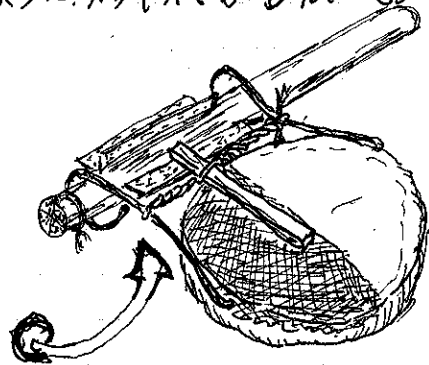
カシース. カルトルの布地. (T) Rs. 36-

任意代 (T) Rs. 25-

セ-7" (2セル... Muree セ-7") (T) Rs. 12-

行き7人. 色の白. 衆人同衆. 楽しかったが帰りは. キュ
ー. ぐー. おめ. ガラム. ガラム. で帰ってくる. トレイル. コンテナ Point
や. ツーリスト. スト. ボ. X. イ. ヨ. ン. 等. よ. ってくる. 4枚の絵草書. を. Muree
の. P. O. より. 出す.

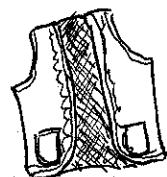
土産物を買う時、俊さんネットのつたかごを買ったが、
7ルビローとられる。小生はネットなしをたのみ、15ルビ:50で7個
買った。ネット代が5ルビロー-50ルビにしたわけである。



Tachili

矢印の方向へ糸を持って
廻すと、10ルビ10ルビと響いた
いい音が出る。子供の
おもちゃである。Peshawar
のバザールの裏道に入
りに入れた。25ルビ10ルビ

ドラムは、竹の様なものを輪切りに、紙を張っただけ。
バチも竹をさいたもの。黒いマムははり金でカムは、
ボール紙。むかむか良く着てある。idea tool である。



Rote

bestの事である。7ルビ10ルビ生地
colorもよし、うらしたカラフル
もの。サスナーをやって、7着15ルビ
で小生と田中氏も、+チョコ
の計11着買う。これはPeshawar

の裏道りでキに入れた。Skarduあたりで、バザールトローヤ
キルキットトローを20ルビ近くでDoctor買ったが、
ここPeshawarのOldバザールは何でも安い。

9. September, 1974.

Q Park Hotel. Payment.

o Total. Rs. 1768.10 (公費) 9.6 (180.084)

\$180	8.00	180.084
x 200		1728.10
108		9.6
144	9.6	768.
36	3	768.
5.1480	288	810
		1768
		420
		384
		36

o 田中氏へお礼のため、\$100ドルの交換
Rawalpindi → Peshawar 750 RS. 18/2 person
・ 750 (Park Hotel + Boy 2名) " 10
・ Coca Cola (2本) 3
・ タンカー Bus stop → Hotel 5
・ Jan's Hotel. dinner (2) 64

o 公費行動 (Tourism Division)

- ・ タクシー 5 RS
- ・ 帰りのタクシー 3 "
- ・ 旅行カバン代 (私用) RS. 250 (P)

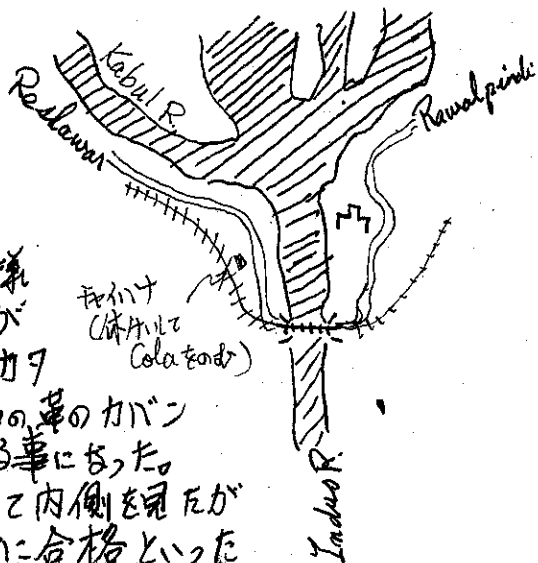
事前に application を Ministry of M.A & Tourism
へ提出し、今遠征の最後の仕事をおえる。タシム
ア7と、20分ほどお話しを済ませる。

H.K. 会議の話しをするに假も入会したいおね申し出られた。無許可登山の件もあり、今年のH.K. 会議は、由題提議し、その他 Pakistan 事情等話し合ひのできようである。

Peshawar へは、tourist wagon を利用して行く。129km と安い。Peshawar → Pindis の航空料金は47である。Hotel のボス2名がバスターミナルまで送ってきてくれる。

ツーリストワゴン は平均時速 40mph で走る。1時間取走る。Karakoram への入山時、通ったパシヤワール街道を、行く。今は草木の緑もすっかり増えて、見ちがえるばかりの風景である。Indus 川に掛る橋は、鉄道が上、車が下の2重橋であった。

Peshawar へ入る4前で、9位に会う。例によってこちらからサザンストームと、雨の境界がくっきりとわかる。スコルのやつてきた。強烈な砂と横巻りの風の後、同様の風雨に会った。ワゴンが風で横にスリップしてガワルナーワであった。新品の革のカバンはさっそく試練を受ける事になった。Jan's Hotel について内側を見ながら、さほど始めておらず、テストに合格といった所である。



10 September, 1974

Peshawar Sightseeing. (with Mr. Tanaka)

帰路のチケット記す。

Chicket 変更. New chicket No, 2143-0086-6146

1. Peshawar → Lahore 14th PK627 16:00 (15:20)
2. Lahore → Karachi 18th PK303 10:20 (09:20)
3. Karachi → Tokyo 20th PK762 15:15 (14:05)

We started from Jan's Hotel at 10:00 am. by tanga. First we visited P.I.A. Office and finished the booking for domestic and International. Next we went to the General Post Office to buy some stamps for the picture cards to Japan. Last we went to the Bus stop near the Hotel and bought the chicket to Kabul in Afghanistan.

cost table

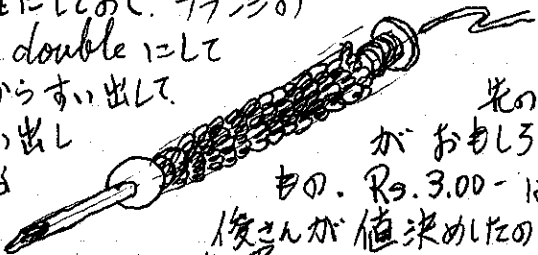
Tanga.	for 2 hours	Rs. 30.00 - (¥)
Stamps	12 × 6 = 7.2	Rs. 7.20 - (¥)
Stamps	1.2 × 10 + 2.5 × 5 + 2.	Rs. 15.00 - (¥)
Lunch.		Rs. 40.00 - (¥)
books. (History of Pakistan)		Rs. 10.50 - (P)
Upp needle	2.	Rs. 9.00 - (P)
picture cards	10.	Rs. 12.00 - (P)

topi (10cm幅) 2ヶ Rs. 4.00-
 best 16 RS x 8 = 128
 15 RS x 3 = 27 Rs 155.00- (田)

○ オールドバザルで "ハラダー" という飲み物をのむ。皿に氷と塩で凍らせた ice cream に、トコテンかぼろの様なものと、米のたいこのはこした様なラシの様なものが入った。米がしである妙な味ではあるが、けっこういける。暑い日の飲みもの。 Rs. 1.25-

○ 足の悪い。Tangaの爺さんから #50 → #498 で change する。この爺さん Tourist をかまわないと心得ている。せいかい English のできるタクシー運転手や Tangaのおさんは、要注意である。それ乗って 30 RS は高いや安いや? old バザルから Jan's Hotel まで帰るのに ミゼット タクシーで 2100- だった事と思えば、ボホト マニガーである。

○ Pakistan 式のしゅうを肩付けたので しゅう針を買う。これは土産にしておく。フランスの糸を double にして 方からすい出して、吸い出し 様な 針の穴に通す。この針が おもしろいので買求もの。Rs. 3.00- は高いと思ったが、後さんが 値決めしたので、しかるもの。小生も本買うだけにとどめる。



○ 駅の近くに Peshawar Museum あり。Tanga でおとす出る。仏教仏像が多くある。おもしろい点は、回教は偶像禁止であるから、この Museum の像も顔がないかと思えば、ちゃんとするのが多かった。口や舌のある仏像がけっこうあって、おもしろかった。ミラ化したゴッドの像もあり、なかなか入魂のあるものもありそうだった。くさりかたびらや、等、old なものもあっている。

Book No. 740...
 PESHAWAR MUSEUM,
 PESHAWAR.
 ADMISSION TICKET.
 25
 PAISA
 11
 Serial No.

○ Peshawar → Kabul の Bus-ticket を買う 1人 23 RS で行ける。 Rs 41- (#)
 Rs 5- (田)

ticket No, 087127, 087128.
 Road Transport Corporation
 11日 am 7:00 start で、7~8時間かかって Kabul へ着くらしい。明日は Afghanistan である。

○ 昼食は、オールドバザルの近くで Chicken Musalumm を食べた。ベター。アンゴスカーシユを飲む。もうミーズンもあつた。あり、ないと思っていたがあるものですね。

Mr. Toshiko Tanaka, Tatsuo Inoue Schedule of Tour

9 Mon. Rawalpindi → Peshawar by bus

10 Tue. Peshawar staying

11 Wed. Peshawar → Kabul by bus

12 Thu. Kabul sightseeing

13 Fri. Kabul → Peshawar by bus

14 Sat. Peshawar → Lahore by air

15 Sun. } Lahore and Somewhere to sightseeing

16 Mon. }

17 Tue. }

18 Wed. Lahore → Karachi by air

19 Thu. Karachi → ... → Tokyo by air

20 Fri. ... → Tokyo by air

21 Sat. ... → Tokyo by air

P.I.A. の time table が古く Peshawar, Kabul 間には
 便がなく、1ヶ月前 16日の便には乗れなくなった。
 従って 20の便と、タイでは金がかかり、おもしろい事とし、
 Lahore の滞在を長くする事にした。

11 September 1974

Peshawar: پشاور پشاور

Karachi: کراچی کراچی

Rawalpindi: راولپنڈی راولپنڈی

Lahore: لاہور لاہور

Abbottabad: اہلبٹ آباد اہلبٹ آباد

Muree: مری مری

Kabul: کابل کابل

Multan: ملتان ملتان

地为ぐらには、ウルド語を讀めた方がよいと思ひ、
 朝 J.B 行のバスを待っている時に客の一人に教えて
 貰う。7:00 発のバス、ミランに着いたのは 4:00 PM ころ

通関で、バス利用とby airとの事で、ひかかり#20の
 ワイロを要求される。また、変な客引きに引掛かり、National
 Hotelに案内されたがまるでキツないホテル。

Doctor 山口 Panty にバツリ出合い、彼らが Janmile
 Hotel にいるという事でもあり、又 National Hotel の
 又人の日本人が急性肺炎で入院したとか、それが又、
 Doctor の話しでは、伝染病というのでさっさと逃げ出す。

Af 100 をキャンセル料を取られる。

#20 ワイロ (通関)

Af 200 後さんから借用。

Af 100 National Hotel のキャンセル料。

Af. 25 タクシー代

Af. 132 夕食代。(後さん支払い)

Khybal 峠は、すかみたいな所で石もなし、アツガンへ入
 ると、山々は全くの石で、広い谷に、オアシスが流れて
 流れて行く。家がドコのレンガ作りで、大きな囲いの中に
 ある様な風景が続く。Jalalabad の手前に美しい湖
 があり、これは、良い景色を作り出していた。Kabul の町
 は、高原のオアシスに似た、広い盆地とも言える。水
 が Jalalabad の川へ流れる谷に道路がついていた。

Kabul の町は、きれいなビルが並び、並木の道は、アス
 フルト、ホリワサ、町行く、乙女達は、パンタロンか、スカートといった
 姿で、イスラムのムードは、半分ほどしかない。食卓の内容も
 かなり変化してきている。ワザンを賣いた男達も多々。

12 September, 1974

今日は、ゆくりぬて、10時ぎに起きる。

- Af. 1000 - 後さんより借用。
- 朝食兼用の Metropolitan ホテル Af 144 - (回)
- 木下城へのタクシー Af 20 (＃)
- ケビニカン Af. 20 (＃)
- 宮殿 Af 20 (回)
- 町までの帰り Af 20 (＃)
- 川までのバス代 2名 Af 200 (＃)
- ホテル代 2名 Af 600 (回)
- 夕食代 Af 120 (回)
- Passport 入れ Af 100 (P)
- たばこ Af 28 (P)
- 11L T 廿 1 Af 16 (＃)
- " 1 Af 20 (＃)
- 買い物の行き、タクシー Af 30 (＃)
- " 帰り、タクシー Af 20 (回)
- コーヒーさんの guide 料 # 5 (回)

ちょっと観光旅行をすれば、よく金を使う。\$ 1.00 = Af 42
 で、後さんが交換に行く。Afghan Bank でかえたらいい。
 昼から Kohi さんのガイドで、J.B 見物としゃべりこむ。

あちこち美しい景色の所を見て廻ったが、あまりにきれい
 でかえっておもしろくない。Kabul の町は、ミニスカートや
 パンタロンスーツがあるが、女の子達は、ボインボインを振
 りまわっている。モンゴル系の人々が多々、せいぜい日本人
 さつきの連中が多々見られる。

遊牧民のテントも郊外には見られ中央アジアの色がこぼれてくる。Pakistanの方が美人が多い。

今日は Expedition の仕事としては、うなぎを整理している。登山期間 42 日に対し、西内の実働 28 が最高で、河本さんの 19 が最低。稼働率 50% 程度である。60% ぐらいに全体がなれば良いのであるが、このあたりも計画時に参考になるのではないかと。

夜、ハルダサを買いに行き持って来ると、ホテルのマネージャーに Bad だと言われ、じゃあ、いいやつを買ってきてくれたところ。なるほど、いいやつを買ってきてくれた。

明日は、9/17 へ帰る準備に忙しい。山口、Doctor は、Kohli 氏のガイド料をケチケチドンスラした形となった。我々の切符を買ってくださる事になっており、400 俊さんがわたしていたし、何らかの連絡を残して去るべきである。旅先のハジはかきすて式の旅行をやしてもらってはこまる。

船津 Doctor のやり方はどうも午前勝手過ぎて、internationalism に欠けている。山口は又、おきりにも思慮の浅すぎる所があり、将来に不安を感じる。何を考て毎日の旅行をしているのであろう。Exp. の promoter はどこの？

次の旅行地は、Lahore である。ちよと、予備知識を入れて、Lahore へ行った方がよさそうである。Kabul では、インテキ Chinese のワズベクが何かの引掛かり National Hotel という何かけたいな Hotel へ移されたが、もうやらぬ様注意したい。

俊さんに 440 Af. 返却する。

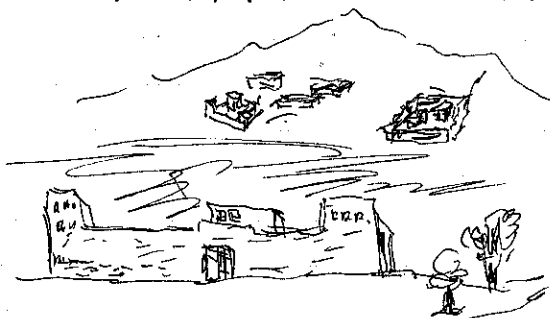
13 September, 1974

J.B. → J.C. (Kabul to Peshawar)

Afghanistan Bus で Kabul から Peshawar へ帰ってくる。Kabul の朝はとても涼しく、ホンコンシャツの上に、かズを着たりする。ハンを買って乗り込む。

- クリーのチップ Af 10.00 (P)
- グラシー Metropal as Bus stop Af 20.00 (P)
- カバーの昼食 Af 35.00 (田)
- コカコーラ Rs. 3.00 (田)
- ストラスト Rs. 3.00 (P)
- タンガー (Dean's Hotel まで) Rs. 7.00 (田)
- Afghan 出国税 Af 100.00 (P)

朝は 5:30 起きて、ホテルを出た。アフガンの農家は、石圍いをして、ドロでかためた大きな田の状のものがほとんどで、土の匂いは、トリデの様に臭えておもしろい。Kabul は、大きな盆地の中にあり、高度 1800m 程度だとか。



Khybal Pass は、鉄道と道路がジグザクと入り、所々の山々のおもむきはほとんど感じられず、がらだが、高原

状の峠は、入口の谷も出口の谷もこれを伝えれば相方の

買ける事ができるとは思えない様な小さな谷である。
Afghanistanの通関は実に印象が悪い。それに比べ、11ヶ
スタンの方は friendly である。

たった3ヶ月のPakistan滞在であったが、Afghanから
帰ってくるとふるさとに帰った様に思えてくるから、おもしろい。
ワドワが通じる事や、Pakistanのタンガーの交渉等、実にの
いから不思議なものである。

陸の国境越えは、アラスカの Haines と Haines Junction
Tok Junction について一度目であるが、ここは Pakistan
と Afghanistan のお国がらがくっきりと出ておもしろい。
Pakistan 側には、ヤミビレ交換家がたくさんたむろして
うるさくつき廻るが Afghan 側には禁止されているのが、
一人も見られない。人の顔もアフガンはモンゴル系で日本
人的な連中が多いが Pakistan 側はそうではない。

役人も、Pakistan 側はおちついて、ゆったりしているが、
Afghan 側は高慢でえらそうにしている。

往路は Pakistan の Bus を復路は Afghan のバスをぞんぞ
ん変えて利用してみたが、Pakistan の Bus の方がよるし
いようで、リクライニングシートでゆったりしているが Afghan
のやつは、一列5人でぎゅうぎゅう詰めであった。

バス代は、Rs. 23 ... Af. 100.
で Afghan の方が2ドル足らずで安いのが何の通関で
100 Af. 取られるから、旅行者にはみればイジの悪い
国と見える。

Jalalabad でバスは休けいす。ファイナで Afghan

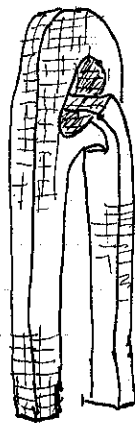
ファイナとナンと、カビーアの昼食を取る。

Peshawar では、復さんが平家式の Hotel が良いと言うの
で、先回見た事のある Deans Hotel に入る。エアコン付で
Rs. 40 という話であったが入って見ると、アホだ、今満足
らしい。

食事は、ジンギスカンでは甘く、バッキングスタイルのセブサービス
方式で食べた。ハンバーグを6ヶと、シチュー他何こう食べた。

- 夕食代、
- ファイ

RS 60 (サイン)
(サイン)



Peshawar old bazaars

Chowk Yadgar

Memorial Square

戦士の塔だとか、バザールの
中に立っていました。

14 September, 1974

Peshawar (پشاور) → (لاہور) Lahore

- Dean's Hotel Rs.180 (#)
- 50 (田)
- 189189 773- 6 (田)
- Lahore 773- Rs.20 (#)
- Chinese L. Rs.60 (#)
- Porter (airport) Rs.5 (田)
- Porter (asia) Rs.2 (#)
- Indus H. → Asia H. Rs.5 (田)
- キーホルダー Rs.17 (P)
- ネックレス Rs.15 (P)
- ice cream Rs.3.50 (P)

Dean's Hotel は冷蔵庫のない部屋に入らされて暑かったが、イギリス式の Hotel で、ピッキング方式の食事等楽しいムードの所であった。

Peshawar 空港から Rawalpindi をへて Lahore まで空の旅とする。Lahore は予想通り大きく、とても古い、美しい所であった。Hira mandi とのぞいて見た。Chinese レストランへ入ったりする。

ここで又、Doctor 山口 組に会う。Hotel まで同じであるとは全く、似た様な事を考えるものである。

15 September, 1974

実に良く寝たもので pm2:00 までぬむ。夕べから腹の調子も悪かった。Lahore は、4日あるし、外出すれば金持た(さん)かかすし、たまにはゴロゴロしているのもいいではないか。

- 朝食 bread & tea Rs.16.00 (#)

※現在所持 # 800.-

Lahore での行動計画、J. Khan さんに会う事、これだけ。Lahore での仕事したい。あとは、Lahore の町の写真を取って帰る。おそらく Pakistan 内でもいちばん古い町だろうからいろいろな風情すべてを市内に持っていると思う。テーマは、何が良かったらうか考察中である。昨夜通ったヒラマンディの町等、実に楽しいものであるかどうかしらん。モノクロームのフィルムを主体に、撮ってゆくのが良いのでは、はかろうか。200mm の望遠レンズを有効に使えるば、おもしろい写真ができると思う。

夕方 Badshahi Mosque へ行き tower へ登る。Lahore の old city や Ravi river の夕暮が美しい。ラホールの町は、組み合って立ち並ぶ町並の難然とした風景とモスクのシメトリックに整理された姿が対比的であった。夕暮とともにタワーの鐘びらをゆるる。水平線に太陽の沈む光景もまた良いものである。

- タクシー Rs.1.00 (#) Rs.450 (田)
- 夕食 Rs.44.00- (田)

のインドの核実験の件で最初の News を Khan さんが New York で 書いた時は、ソ連の援助力を受けて成し上げたものと見られていたが、自力開港であったことからアメリカがよろこんだとか、Korea での大統領選挙事件等も News になった。

ビーフステーキだけで腹が満ちたり夕食など日本ではちょっと考えられない事である。彼は Pakistan の政界商界でもかなりの有力者らしく、京大は彼をうまく利用している。こうした人となりのつながりを京大はうまく作っている。多くの会員が何度もネパールやパキスタンへわたって作り上げていった伝統といえよう。我々山岳会もそうした、底のない、深いクラブに発展させてゆきたいものだ。ちょっとした遊び程度に何でも処理して、自分達の楽しみだけを求めているのは発展性がない。Pakistan にウルド語を勉強してくるぐらいの学生の出でくる事を望みたい。

山口あたりももう少し、何か教養を身につける努力をしても良いと思うのだが、どうも我々山岳部の連中は、山に登るやつは、勉強しないし、勉強するやつはそこそこに勉強して、山に登らなくなるのでおもしろ味のない連中はかである。

協力とか、団結とかにもとぼしいし、全く腐ってしまっているわい。平井先生と相談して、何とかしなければ、次の遠征も全く考えられない事になる。

Specialist を多く入れてゆかねばならないと、

皆が Specialist になる様努力しなければならない。relationship についてであるが、例えばイラカの場合も、M.E. Alford 氏等と contact をとりつづけるべきであらうし、I.R.R.P. の パスポート とも同様、contact してつづけるべきである。

Doctor. 山口と再びゆかれ、彼等は Karachi へ、我々はもう一日、ここ Lahore へ残って、Khan さんと contact を取る。明日は pm 6:30 に車をむかえに差し向けてくれる。

• これにしても、山岳部の会員、もう少し英会話ができるべきである。小生一人しゃべっていてもつらくないと思う。小生にしても今日は専門家を前にして、政治問題等論ずるには致らず、もう少し、Newspaper 英字新聞でもよんで、vocabulary をふやさせなければならないし、基本会話もあって、たたままねばならない。

We met Mr. Hayat Ahmad Khan, in his house this morning, and we knew the accident that in the Kyoto Univ. party, 2 members died in the mountain. They might be knocked down by a avalanche.

17. September, 1974

午前11時起床.

○ Breakfast	Rs. 40.00	(田)
○ Dinner	Rs. 48.00	(田)
○ ラッシー	Rs. 3.30	(#)
○ ラムネ	Rs. 0.80	(田)
○ バババタタターシー	Rs. 3.00	(#)
○ " バガールへ	Rs. 2.00	(田, #)
○ 反けん	Rs. 6.00	(#)
○ タンカー	Rs. 3.00	1/2 (雷)
○ Shalimar Garden	Rs. 1.00	(#)
○ タバコ	Rs. 6.00	(#)

今日もゆくりした予定で start する. *Deia Hotel* の Restaurant で 朝食兼用の食事の後. *Hotel* の前でみせろとタタ、それもメーターで走るという良心的なのによって *Shalimar Garden* へ行く. この garden は市の北東にあり. 池と. 緑の芝の美しいものでリスがたくさんいた. *Lahore* 市民ののいこの場となっている. べんとう持ちの家族グループがヒョクニックにやってくる. もう一組. 少女達の遠足姿もあった. *Emperor Shahn Jahan* が 1642 年に作ったもので大理石の. 舞台やレガの歩道が調和し平地の緑の芝と樹木がすく. けはけはしさを消し. 又木陰を作って. ほんとにおうつろムードの広園になっている. 次は. *Old city* のバガールへ入る. 狭い道とぎらいつまたしなが作りの家並. 見て廻るにあきない楽しい

ものだった. しゅう屋. 銅の鍛冶屋. lady's shop. 石屋. と. 下町ムードの所である. こゝを *Pakistan* といったところ. *Wazir Khan* の *Mosque* も *old city* の端の方にあった. もごつく紋様の壁が美しいが. たいぶいたんでおり. 現在修理中であつた.

夕方. 6:30 *Hayat Khan* さんの差し向けてくれた車で. 彼の家へ. *Fruite Party* を彼の庭先でおく. こゝも *Pakistan* の上流社会の姿を見られ. 又. おいしい果物に囲まれて楽しいものだった. 深田カレバジの高橋さんは一足先にカラテへ.

京大の野口 Doctor から *Khan* 氏へ. Tel あり. *Skardu* へ京大 Party が着いたとの情報を得る. やはり. 2名の隊員が死亡したとの事. 気の毒な事である.

我々. *Sheyni Kangri* の登頂は成し得なかつたが. 全員無事下山できた事を改めて. 幸せに感じる. カラゴルムの 7000m 山峰. 確かに最後は. カケになる. *Sheyni* から見た K12 の稜線は. 決してやさしいものではない. 北面の峰もあるいはゴルから attack したのかもわからない. 下りの *felible* な事は想像にかた(ない). *Sheyni* 東峰南稜は. さらに急であった. 我々として. *attack* の機会は. おと考であつた. しかし. やつていけば. 京大と同じ結果をまねいていただろう. G₃ で. 気重に. 断念を決意したが. それでも. 一つかけるべきではないかという気持が強かつた. 自分自身の気持. 僕個人の意思は. 頂上へ向つていたが. なぜか. やめてしまった.

18 September, 1974

لاہور سے کراچی

Lahore → Karachi

• AM 7:30 起床.

- 朝食 Rs 16 (田)
- telegram Rs. 60 (#)
- taxi Rs 20 (#)
- chip Boy Rs 2 (#)
- Hotel charge. Rs. 154 (#)
- Porter (air port) Rs. 5 (田)
- 97シ- Rs. 10 (田)

patronize (péi) 後援致

- 97シ- Rs. 9 (田)
- 花びん 1バラ Rs. 100 (P)
- " 109 Rs. 40 (P)
- フォート Rs 65 (P)
- スタック Rs. 20 (田)

兼松あいつフレックステーション

" 河本の報告をキキ Sheryi 東峰は、(eastern top of mountain) 少くも登頂可能と判断した。現在のメンバーを元に来年に向け計画を進める予定。許可を取る様 努力された。

詳しくは、帰国後の報告に待つ、山内、坂本、岡本 (13日)

荷物の発送に関しては、かなりごたごたした態も様である。兼松のひ良さんには、その点で指摘された。山口、Dootor に会う。Midway House へ入る。room No. 43. 夕食、梅良さん、加藤さん、御一家と、ある chinese Restaurant で夕食会を供にする。久しぶりのスキーに、古も良くなる様になった。いろいろ話しをする。

明日は Jawaid 君に、日航のオックスの前で 9:30 に会う約束である。

110キスタンの3ヶ月もそろそろ終りである。いよいよあと2日で日本へ帰る事になった。さて日本という国の印象はどう出るか。

#30 calculator 代金 酒井お

19 September, 1974

8:40起床. Jawaidと会う約束だったので. 朝食も取らずに. 77シーに飛び乗る. 日航の officeで待合せて. 酒井の滞在していた. 本コンパル City Hotelへ行き. 山の事について話す. 来月彼が Rawalpindiへ仕事で行く機会に. ナルウラ-マワン氏に会ってもらう事にした. 来年の application をび 今回の遠征での発生した問題 及び report を早急に Jawaid 君に送って. 来年はより comfortable な旅となる様に Pakistan 政府に改善してもらう action をやらせよう.

その他写真等も彼に送る約束をした. これで Karachi での仕事もすべて終了したかに見えたが. 70ロイヤルガスの一件が残っていた. それで. 70ロイヤルは. 一応カス467 リアランスをやって. Siddiqi さんの所にでもおいてもらう. dispose するなり何なりしてもらう事とした.

空港 customs の 酒井君と行き. agency への依頼だけをやっておいた. 税関の permission を得る.

- 77シー total 12RS. Rs. 10 #1 Rs. 2 (田)
- Air Port Rs. 10 (田) 済.

- 70ロイヤル通関費
書類作成費 Rs. 15 (田)
- agent charge Rs. 25.
- taxi Rs. 37 total 69RS
- copy type Rs. 2. 酒井へ
- 副部長用 フォト 2枚 Rs. 185. (田)
- 学長用 フォト Rs. 180 (田)

- 部長用 80 Rs. 80 (田)
- 会長用 Rs. 80 (田)
- 77シー air port → Hotel Rs. 3 (田)
- 77シー. Hotel to Downtown Rs. 6 (田) Rs. 4 (山田)
- 夕食会 Rs. 250 (田)
- 77シー Rs. 10 (田)

System of Ministry of M. A. & Tourism

prime minister Mr. Bhutto

Raja Tridiv Roy
(Minister)

Mr. Tariq Saeed

Mr. Kagi

Mr. ?

Kreishi

Awan

?

IFTER KHAR

P. T. D. C.

夕食での Syed Sarfaraz Jawaid の話し.

- NIPPA のねらいは Expedition specialist になる事
- カラコルム・ヒンズークシエ会議の席上で出た問題について 詳しく NIPPA へ報告する事
- 我々を含め 日本人 Party が 駆け終した問題を報告する
- R. Tridiv Roy 氏は 仏教徒である事 従って 仏教徒である日本人については 特に興味を持っている事
- 来年の application 及びその変更があれば T.D. へ提出 Embassy へ提出と同時に NIPPA へ copy を送る事
- Permission は 来年については 10月 Pindi へ行った時 rush してもらう事 10月20日以後の問題

Restaurant "Sazar" にて.

20 September, 1974.

この日最後の日 Pakistan を離れ 日本へ帰らねばならぬ日 が やってきた。3ヶ月と1週間ばかりの長い滞在であった。いろいろなややこしい事も多かったが、とにかく全無事だった事に。まずはめでたしめでたしといったところである。

9:00 荷作りのため起床、ぬかり朝食を食べて待つ。Hotel の支払いは Rs256 であった。夕7時5分、空港へ。ユーリウ氏が見送りに来てくれた。何も役には立たなかったが、親日家である妹君がこの日結婚し、夫君とともに Embassy of Japan へ行ったそうだ。

Midway-House で Pakistan 最後の Lunch を取り、空港へ。手続等は簡単。荷物の check もほとんどなく、通関した。DC-10 の機内はかなりの広いが、シートは狭く感じる。空の上は、空気もきれいだし、雲が何とも言えず、(美しい)。

21 September, 1974

バンコクで Doctor, 山口の2人がおりにいた。酒井
を加えて3名。我妻みさをさんとも再会。機内は少したいくつ
しなくなった。彼女が差し入れてくれた週刊紙に目をしば
ぬいた。酒井の買ったウスキーの味に、つられてとうとうぬる
事ができた。

再び帰ってきた日本は、緑に包まれて美しい国だった。
大島上空あたりから、厚い雨雲の層を通り貫けて海面
に近づき、行きかう船の上を通って海海の近くへ、機
は一度大きくせん回し、おおと羽田空港へおりにた。
通関手続はさほどむづかしくもなく、パスを丹にかえて
日本へ足を踏み入れた。

兄貴が一人出迎えに来てくれた。鎌倉の兄貴の
家へ、義姉の作ってくれた夕食に、日本の味を思い出す。
小生も伯さんになった。ぬいの朋子も3ヶ月たつてずいぶん
大きく育っている。かわいらしい顔をして、にほこめう。

日本の印象... 以外に美しい。
女性の数がやたらと目につく国に
ある。
雨が何とも情緒あるものに思えた。

さらば Pakistan よ。又次の機会まで。
アッサラム アライカム!

Short Essay

いつか、又もいつ、Shigeo Koyagi

に答える日本へ来たように。

◦ Masood Ali

Hotel manager of Asia Hotel
Railway Station, Lahore, Pakistan

* House address

House NO. 482/F, Kashmiri Bazaar,
St. Koté Daran, Lahore, Pakistan.

LahoreのAsia Hotelのフロントマネージャーで若い方。年が
22~23くらい。日本女性のPen friendを募める。
手紙をくれるそうだ。

◦ Amir Ahmad Nazri

ひげのおぢさんでやはりPark Hotelのmanager
である。

◦ Mian Iqbal Mahmood

Park Hotelのfirst managerである。Hotel代は
安くしてくれるし、何かと助力をしてくれる。truckの
charterは彼にたのんだわけである。腹の膨ら
motaであり、人相が悪いが、やさしい男であった。

◦ Mian Rauf

Manager of Park Hotel. Iqbal氏の兄弟で
色は白く、温厚な人物。見てくれはIqbal氏と金く
ちがい、ほんまに兄弟かなと思うくらい。

o Rajiv Tridiv Roy

Minister of Minorities Affairs & Tourism

6月22日 だったと思う。 National Assembly of Pakista
で会見し今後のカコルム登山に入つて、いくつかの飯内を
した人。温好なさすがと思える人物であった。一国の
大臣と会見できる機会等とうめったにあるものではある。
彼は仏教徒である。

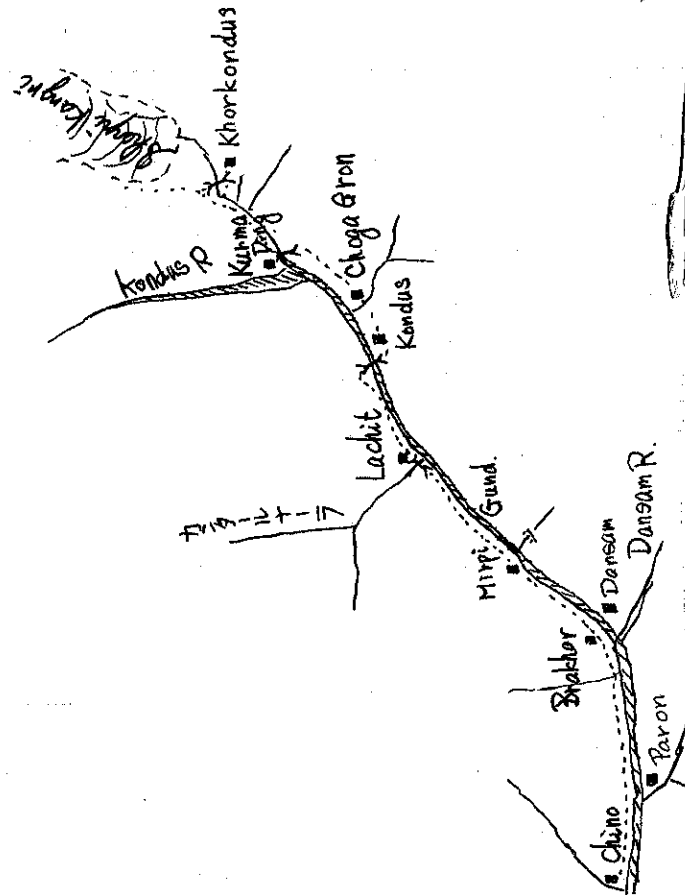
o 高橋啓一

深田カルベジ株式会社 副社長付
東京都港区虎ノ門ハ、虎ノ門実業会館
tel 591-9101

% Nissho-Iwai, Karachi tel 511001, 2

9/17. 16 両日。 Mr. Khan 氏のところへ会う。カラチに
18日我々がつけば、 Midway House で夕食をともに
しようという事になっている。

Caravan Map. No. 2.



16日の早朝 無事カラ空港に着きました。途中飛行機はマニラとバンコックによりました。
マニラはさすがに暑く。夜にも熱風が体内を吹き抜けました。マニラ、バンコックはすごい雨で、機内では
機内では、色々な人が我々に話かけて来、~~色々楽になった~~が、私の所はいつもにぎやかでした。
相手が目撃してはいないものの、少し大きい目かいます。
僕は出発前から、5つと胃の調子が少しおかしい Shizuoka Tohan Club で機内食は全食べません
でした。井上さんは「またか」と言いますが326 Hanagura 残さず食っていました。

カラ空港にはPIAのナリ・リ層と丹波株式会社 アサヒ君氏が日曜日にモカカゆす
我々三人 (静岡登壇クラブの秋山さんとはずっと行動を同じくしている) を向かえてくれ。
色々面倒を見てくれたので、物事がスムーズに行きました。16日は午前中ずっと眠って
ましたが、午後からはカラ市内見物としてLalにのみ。井上さんとは人でかけました。タクシの屋敷さんは
少しばかりくせな男でしたが、~~色々~~ 何々面白い男でした。Hotelに到着して、How much?
と聞くと 6DRSだと言うので、さるく値切りにかかり、車の中でしばらく手帳に数字を書いたりして
交渉して貰いましたが、この日はどうも私の敗北に終わったので。何はともあれ、今日は
楽しい日曜日でありました。

6月17日

先生、どうもお世話になりました。お疲れ様でございました。